

## 「ビートルズと英国病 そして日本」



昭栄産業株式会社 代表取締役社長  
東日本ミツボシ特約店会会長  
平澤 利明 様

このたび、東日本ミツボシ特約店会会長を仰せつかりました。昭栄産業株式会社の平澤 利明です。当会発展のため精一杯努めてまいりますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

さて、この原稿を書いている6月29日は、奇しくも46年前にビートルズが来日した記念すべき日です。その年の4月から横浜に住んでいた私は、運よくチケットを手に入れ、日本武道館の公演に行くことができました。

この約1年前、彼らはイギリスの外貨獲得に貢献したということで、エリザベス女王からMBE勲章を授与されています。バクスブリタニカといわれ、18世紀の産業革命から100年以上が経ち、福祉の先進国で「揺り籠から墓場まで」と羨ましがられた英国は、1960年代には貿易収支は赤字でポンドの価値は下がり、英国病といわれるほど社会は疲弊し、経済の国際競争力は落ちていました。そんな時に世界ヘレコードを売りまくるビートルズは、まさに救世主だったのでしょうか。当時の労働党政権にとっては「WORKING CLASS HERO」として、若者の不満の緩衝材の役割をも担っていたのかもしれませんが。

工作機械の父 H. モーズリーを生んだモノ造り先進国の英国は、この頃既に米国などにその地位を奪われていたのでしょうか。また、主な企業は国有化され、事なかれ主義の経営になれば、生産は停滞し技術は進歩しないことは想像に難くありません。社会資本は充分整備され、取り敢えずは現状で良いと思ったときに衰退です。1980年代のサッチャー政権になって、電気、ガス、水道などを民営化し、日本の工作機械メーカーの工場誘致をしたりして、英国は漸く経済の活性化をみることになります。

このころの英国の状態は、まるで今の日本を見るようだとは思われませんか。第二次世界大戦後、官民一体となって日本株式会社として伸びてきた我が国経済は、1990年代のバブル崩壊後ほとんど停滞した状況で

す。原料を輸入して加工し付加価値をつけて輸出するという、資源のない国のいき方ができなくなりつつあります。31年間続いた貿易収支の黒字も、昨年はずいに赤字に転落しました。ビートルズの活躍した時代の英国労働党政権は、誤った方向へ舵を切ったのかもしれませんが、日本の政治家は国民をどこへ導こうとしているのか、無策の20年間と言わざるを得ません。金型産業や電器産業の状況を見ると、単に頑張るだけでは生き残りは難しいと思ってしまうのは私だけでしょうか。実力の伴わない円高、欧米や新興国に比べ未だ割高な法人税など、本当に改革をする気はあるのかと疑ってしまいます。

ミツボシ様の売上も海外比率が7割近くに達し、日本の工作機械メーカーも同じく海外比率が7割、この流れに抗うつもりはありません。しかし、日本国内から見ると性急に過ぎると思われるグローバル化の渦の中で、これといった策を施さず放っておくと、必ずや将来に禍根を残すことになります。微力ながらも、モノ造り産業に関わる者として、様々な場を通じて政官界などに言うべきことは言わねばならないと思います。

ビートルズが少年期を過ごしたリヴァプールは、産業革命の頃にマンチェスターで作られた綿織物製品を輸出して栄えたそうです。10年ほど前、私の念願叶って訪れた彼地は、駅前のあちこちにゴミが散らかり、港には船影も少なかったように記憶しています。4人に録の場所を訪れる観光バスも、思ったより少ない本数で、リヴァプールの人たちは案外彼らに冷たいのかなと思ってしまいます。既に4人のうち2人は亡くなり寂しい限りではありますが、彼らが世界に及ぼした影響は計り知れません。私にとっては、アイドルではなく正に「偉人」たちでした。

思いつくままに、他愛無いことを書き連ねてしまいました。最後に、あらためて会員各位のご健勝と会社のご発展を祈念して、私の就任にあたってのご挨拶と致します。